



## 「元気な博物館」

館長 能登原 巧

近年、長引く経済の低迷の中、博物館にあってもその荒波をまともに受け、全国的に入館者数の減少という状況が続いている。

他方、人々の心の豊かさを求める傾向は益々高まり、生涯学習の中核施設としての博物館に寄せられる期待は、多様かつ高度なものになっている。

開館当初5～6年間は、毎年40～50万人の入館者数で、館内には、毎日人があふれていたと聞かされている。最近の年間入館者数は、3～4万人。職員全員で知恵を出し合い、ホームページの充実や手作りの看板やポスターなどによる積極的な広報活動に力を入れているが、往時の盛況ぶりからすれば隔世の感がある。

館長室に届けられる入館者数を見ては、一喜一憂している。入館者数が絶対的なものとは思わないが、博物館活動の一つのバロメーターになることは間違いないと思う。本当に大切なのは、事業トータルであるといっても、やはり多くの人に見てもらいたいし、いろいろ創意工夫を考えていかなければならないと思っている。そんなこともあって、できるだけ入館者と対話をし、その中から多くのことを学んでいる。

今、子どもたちといかに関わっていくかが課題となっており、「博学連携」の推進が望まれている。博物館の持っている教育資源が、有効に活用されることによって、子どもたちの学びがより豊かなものになるにちがいないと思っている。子どもたちが博物館を訪れ、目を輝かせて学習する場面が多くなることを願って、学校との連携を一層深めていきたい。

★学芸員が小中高校に出向き、岡山の歴史について講義する『出前講座』★「サムライ気分になれ最高」との感想も寄せられ、大好評の『本物のよろいを着てみよう!』★古代の装飾具の歴史を

学び、勾玉を作った『博物館れきし探検』★博物館の舞台裏を案内する『博物館探検』等々子どもたちと関わる事業を積極的に実施している。

博物館活動の中心である展示では、常設展示は、季節ごとに展示替えし、わかりやすい展示に心がけるとともに、解説等も改善しながら、何度来ても新しく、楽しく鑑賞できる展示を心がけている。また、今年度の特別展で、他館との連携による新しい取り組みとして、岡山・兵庫・広島3県合同企画による「津々浦々をめぐる」を開催した。単独では難しい多様な活動を展開することができた。今後もさまざまな連携・協力関係を工夫し、活動の幅を広げていきたい。

4月には、待望していた「県立博物館友の会」が設立された。三百数十名という多くの方々に入会いただき、博物館への期待の大きさを感じている。友の会活動が活発化し、行事への協力、PR等多岐にわたって非常に強い協力者として大きな力を発揮していただけると期待している。我々も、会員との対話と連携を深め成長していきたいと思う。

私としては、33年間の良き伝統を生かし、県民の意見や提言を博物館活動に反映させながら、県民から頼りにされる博物館にしていきたいと考えている。

今の県立博物館の活動には、まだまだ不十分なことも多いと思うのだが、職員全員で創意工夫しながら元気な博物館を目指している。「そんな博物館に是非、足を運んでいただき、さらに元気に活性化させていただきたいと願っています!」



## 研究ノート 備前筒

江戸時代を通じて、堺（大阪府）・国友（滋賀県）の二大生産地を中心に全国で製造された火縄銃は、その形状から地域名に筒をつけて呼ばれています。仙台筒（宮城県）や土佐筒（高知県）などが有名で、それぞれの生産地によって火縄銃に特徴があります。

一方、平安時代から続く刀剣の一大生産地であった備前国（岡山県）では鉄砲が製造されることはありませんでした。そのため、岡山藩は必要な鉄砲を堺や国友に注文していました。

しかし、江戸時代後期、刀鍛冶から転身した横山辰右衛門祐信を初めとして、文政から明治維新までの約40年間、備前で鉄砲が製造されました。いわゆる備前筒で、その主な特徴は、

- ①銃口がろうと状にゆるやかに広がるつぼみ型
- ②引き金が柿の種を半分にしたような柿の種型

③カラクリが全て鉄製

④鉄砲台の最後部の形などです。

もともと鉄との関連が深い土地柄であったこともあり、備前筒は優れた性能を示し、備前国内だけでなく、備中・美作や長州（山口県）などまで流通していきました。まさに備前筒は火縄銃の最後を飾るブランドであったといえます。

平成16年春季特別陳列「備前の鉄砲」における調査で、これまで知られていない銘を持つ備前筒が発見されました。久米町の方が所蔵する火縄銃を改良した雷火銃で、銘は「備前長船住横山雅雄祐廣」、台木には「東吉備住尼子林蔵源吉寿作」の銘も見られます。雅雄祐廣については初出の鉄砲鍛冶で、詳細は不明、備前筒の特徴①～④を全て持った典型的な備前筒で、これから研究が進むと思われます。（学芸員 木下浩）



細筒銘「備前長船住横山雅雄祐廣」

## 館蔵資料の御紹介～岡山市八幡大塚2号墳の組合式家形石棺～

県立博物館の玄関に向かい、少し目を左に移すと二つ並んだ大きな石の棺が視界に入ってきます。今回は右（北側）に位置し、表面が赤く塗られた石棺について紹介します。

この棺は死者のために作られた柩で、蓋石・底石・4側石各1枚の計6枚の板石を組み合わせて作られています。蓋石と底石に縄掛突起が見られ、蓋石の長さ235cm・幅128cm、長側石の長さ185cm・幅85cm、短側石の長さ100cm・幅85cm、底石245cm・幅150cm となっています。この家形石棺は南側に並ぶ5世紀後半頃の朱千駄古墳（岡山県山陽町）の長持形石棺と同じく、兵庫県加古川地方（高砂市）から産出される竜山石で作られています。朱千駄古墳の石棺同様に約80km離れた岡山市北浦（児島）の八幡大塚2号墳まで運ばれています。運搬の時期は朱千駄古墳の石棺より新しく、6世紀後半頃と考えられ、おおよそ100年の開きがあります。

八幡大塚2号墳は昭和41年に発掘調査された

径約35m・高さ約7mの円墳で、横穴式石室内にこの家形石棺が置かれていました。石棺内は鮮やかな赤色が塗られ、長側石には赤紫色で十・一と読める記号が書かれていたそうです。棺内中央には頭を入り口（南）に向けた人骨残片が見られ、耳に当たる位置には朝鮮半島の古墳出土品に類似する金製の垂飾付耳飾が一对・銀製の鍍金した空玉・直刀・矢筒・鎌が残されていました。

棺外では須恵器・土師器・銚・甲・馬具・釘・貝殻などがありました。

これら出土品の一部を館内に展示しています。

（副館長 高畑知功）



平成16年度博物館講座

本講座は、岡山県に伝えられる文化遺産を正しく理解し、継承していくために、できるだけ実物資料にふれながら、郷土の歴史と文化を学習するものです。本年度は120名（2班で各60名）の募集定員に対し、197名の応募がありました。

会場の講堂では、講義終了後も講師に質問するなど、毎回熱心な受講生の姿がみられました。

【講座内容】

- ・ 日程 第1班（火曜日）6/8,15,22,29  
第2班（木曜日）6/10,17,24, 7/1
- ・ 講師 本館学芸員（一部外部講師）

	テーマ等
第1日	瓦から歴史を読む ～白鳳寺院の瓦から～ 津々浦々をめぐる ～中世瀬戸内の流通をさぐる～
第2日	阿弥陀・極楽・地獄・十王 石島をめぐる備讃国境争論
第3日	宇喜多直家の時代 ～花押から読み解く～ (講師：岡山県総務学事課主査 横山 定) 江戸時代の岡山画壇
第4日	おいねと玉江 ～江戸時代末期の岡山の女医たち～ 古墳時代の須恵器

おかえり! 古代吉備の名品たち

東京国立博物館には、かつて岡山県内から出土した考古資料の優品が数多く所蔵されています。今回、このうちの3件87点が里帰りし、特別陳列『里帰り! 古代吉備の名品』を開催することとなりました。いずれも古代吉備の栄華を物語る貴重な資料です。この機会に、ぜひ御覧ください。

会期：平成16年10月9日(土)～11月14日(日)

平成17年1月5日(水)～3月21日(月)《予定》



美作町野寺山古墳  
装飾付陶棺



牛窓町鹿忍樋ヶ谷出土  
装飾付須恵器

大興奮『本物のよろいを着てみよう!』

気分はサムライ! 岡山県立博物館では、5月5日の「こどもの日」に、小・中学生を対象にしたイベント『本物のよろいを着てみよう!』を開催しました。

これは、実物のよろい（甲冑）<sup>かつらぎゅう</sup>を実際に着ることで、本物のもつ質感や迫力を体験し、歴史への興味や理解を深めてもらおうと企画したものです。使用したのは、当世具足<sup>とうせいぐそく</sup>という江戸時代の甲冑を修復したもので、すべて装着した時の重量は約11kgもあります。定員をはるかに越える応募があり、やむを得ず抽選により参加者を決定しました。

当日は男子5名・女子5名が、学芸員に手伝ってもらいながら甲冑を身に付けました。よろい武者姿となった子どもたちは、思っていた以上の重さに驚いた様子で歓声をあげていました。また、家族で記念写真を撮るなど、端午の節句らしい楽しい一日となりました。（学芸員 佐藤寛介）



『岡山県立博物館 友の会』の設立

平成16年4月、岡山県立博物館の力強いパートナー、「岡山県立博物館 友の会」が誕生しました。

友の会では、研修講座や現地見学を実施するとともに、会報や博物館の催し物案内などをお届けしています。また、博物館の入館料が割引になるなど特典もあります。「友の会」で、博物館をより活用していただきたいと思います。現在会員募集中で10月以降入会の方は年会費（一般会員2000円など）が半額になります。入会手続きなど、詳しくは次まで。

■「岡山県立博物館 友の会」事務局■

〒703-8257 岡山市後楽園1-5 岡山県立博物館内  
TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

只今準備中

## 特別展「日本のわざと美」展

～重要無形文化財とそれを支える人々～

演劇、音楽、工芸技術、その他の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いものを無形文化財といいます。無形文化財は、人間の「わざ」そのものです。国では無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定して、そのわざを高度に体現する人々を保持者又は保持団体に指定しています。いわゆる「人間国宝」とは、この重要無形文化財という「わざ」の保持者をさす通称です。

また国では、文化財の伝承に欠くことのできない技術を「選定保存技術」として認定しています。これは、有形文化財の保存修復や、無形文化財の継承に必要な道具や素材、たとえば刷毛や紙や染料といった伝統的な道具や素材を作る技術をさします。

この展覧会は、重要無形文化財のわざと、これらを支える伝統的な技術・技能を、広く知っていただき、我が国の伝統的なわざの伝承を図るとともに、そのわざの重要性や美しさを実感していただくこと、文化庁・岡山県教育委員会・岡山県立博物館が協力して開催するものです。

備前焼（金重陶陽・藤原啓・山本陶秀・藤原雄・伊勢崎淳）、木工芸（大野昭和齋）といった岡山県内の作家をはじめ、陶芸・染織・漆芸・金工などに優れた「わざ」を体現する重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品や、保持団体の作品、工程見本、選定保存技術の資料を一堂に公開します。我が国伝統工芸の最高の「わざ」と「美」を御鑑賞ください。

会期中は、久留米餅、伊勢型紙の制作実演のほか岐阜県現代陶芸美術館館長榎本徹氏による記念講演会（演題『近代茶陶の展開』）も開催します。多数の御来館をお待ちしています。

### 会期

平成16年11月19日(金)～12月19日(日)

休館日 毎週月曜日

### 制作実演（場所：2階ホール）

①重要無形文化財久留米餅技術保持者会による久留米餅の実演

日時：11月27日(土)・28日(日)

午前10時～午後4時

②重要無形文化財伊勢型紙技術保存会による伊勢型紙の実演

日時：12月4日(土)・5日(日)

午前10時～午後4時

### 記念講演会（場所：講堂 聴講無料）

演題：『近代茶陶の展開』

講師：岐阜県現代陶芸美術館館長 榎本徹

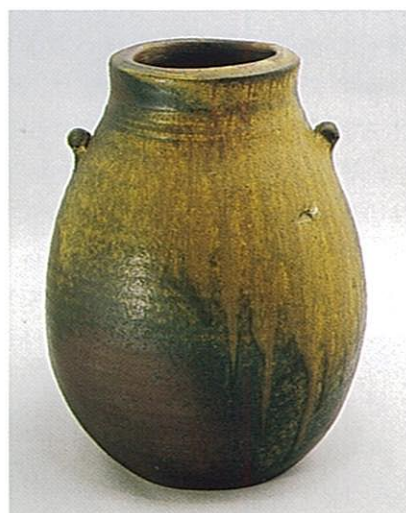
日時：11月23日(火・勤労感謝の日)

午後1時30分～3時30分

### 本館学芸員による展示解説

日時：11月27日(土) 12月11日(土)

午後2時～3時



備前焼壺 藤原啓作

### ■岡山県立博物館だより 第62号■

○発行日 平成16年9月30日

○発行者 岡山県立博物館 館長 能登原 巧

〒703-8257 岡山市後楽園1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

[URL]<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています